

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 くに 重 しげ とおる 徹 教授



主な研究テーマ

□英語多読・多聴・マンツーマン英会話をベースにした基礎的英語トレーニングプログラムの開発とその効果分析

令和元年度の研究内容とその成果

【研究目的と概要】

本学の学生を、グローバル化した社会で活躍することができる人材として育成することを目的とし、主に次の3つの能力を向上させるための基礎的英語トレーニングプログラムを開発し、その効果を分析する研究である。

- (1)国際大会等に、選手やサポートスタッフとして参加する際に、また、スポーツを通じた国際交流等を行う際に、異文化をお互いに理解し合うために必要な英語能力
- (2)スポーツ種目の歴史や特徴、日本の伝統文化を語れる英語能力
- (3)学生アスリートに必要な英語による基礎的メディア対応能力

【研究の実施計画・方法】

国際大会等に出場したことがある、または、今後出場する可能性の高い学生アスリートや、国際大会等でのサポートスタッフ、もしくは、今後サポートスタッフにな

ることを目指す本学の日本人学生から基礎的英語トレーニングプログラムをやってみたい人を募り、以下のような内容のプログラムを実践する。そして、そのプログラムの効果を、分析・検証する。

- A) 英語でどれだけのコミュニケーションが取れ、どれくらい質疑応答ができるかを図る、プレプログラム英語スピーキング能力チェックテストを行い、同意を得た上で、ビデオに録画し、ループリックを用いて能力を評価する。
- B) ごくやさしい英語の多読・多聴用図書を大量に読む。
- C) 日本の文化・伝統・歴史、及びスポーツ種目の歴史や伝統文化について書かれた英語文献（やさしめの新聞記事や英語多読・多聴用図書）を読んだり、聴いたりし、マンツーマン英会話の際に、その概要を簡単な英語で口頭により説明する。また、読んだり、聴いたりしてきた内容に関して教師とマンツーマンで質疑応答を英語で行う（基礎的なメディアトレーニングも含む）。

- D) 例えば、東京オリンピックの開催の是非を問う記事など、スポーツ全般に関して議論のトピックになりそうな新聞記事等、及び体罰やドーピングなど、スポーツ倫理に関する新聞記事等を読み、内容について自分の意見を英語で発表したり、教師と英語によるディスカッションを行ったりする（基礎的なメディアトレーニングも兼ねる）。
- E) 概ね週1回で計20週実施した後、プレプログラム英語スピーキング能力チェックテストと同レベルのポストプログラム英語スピーキング能力チェックテストを行い、同意を得た上で、ビデオに録画、ループリックを用いて能力を評価し、プレテストとの比較分析を行うことで、プログラムの効果を検証する。

年度末より、新型コロナウイルスの影響により、マンツーマン英会話を対面で行うことが難しくなってきたため、令和元年度には、上記C)の途中まで実施することができた。

これからの研究の展望

今後は、新型コロナウイルスの状況も考慮しつつ、感染防止に注意を払いつつ、場合によってはオンラインで、昨年度の続きを実施していく予定である。そして、上記E)までを遂行し、プログラムの効果を検証するところまで持っていきたい。